

「瀬戸内式指導案を使って授業案を作ろう」

5月27日(金)に令和4年度第1回の瀬戸内まなび塾を行いました。今回は、瀬戸内式指導案をもとに、授業づくりの基礎・基本について模擬授業、演習を通して先生方と一緒に勉強しました。

今後も、授業5(めあて、表現する時間の確保、目標の達成度の確認、まとめ、ふりかえり)を大切にするとともに、めあてと学習活動とまとめ、評価が一体化している授業を子どもたちとともにつくっていただきたいと思います。



B評価の基準を具体的にもって毎時間の授業をつくることで、生徒を正しく評価することができることが分かりました。今後も教師の心象ではなく明確な基準をもって授業に臨みたいと思います。

今回のまなび塾に参加したことで、めあてと評価、指導の一体化について、これまで以上に鮮明に理解できたように感じました。B評価の基準について教師が明確にしておかなければ、生徒も教師も苦しい授業になることを再確認できました。



子どもの立場になって演習することで、めあての内容、示し方がとても大切で、その時間の子どもの学びのモチベーションを上げたり、下げたりすることが、改めてよく分かりました。

具体的なめあてにすること、また児童の実態に合わせた言葉にすることも大切だと感じました。普段の自分自身の授業を振り返るよいきっかけになりました。

日々の生活の中で、なかなか見直すことができない授業づくりや教材研究について考えることができました。これからも子どもが「授業が楽しい、学校が楽しい」と思えるようにしていきたいです。

今後、ICTを効果的に活用した授業や思考力・判断力・表現力を育てる授業、評価の仕方等について研修していきたいです。

